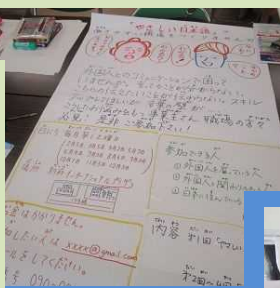


外国人とのコミュニケーション拡大事業 事業報告

(令和2年度－令和4年度)

「やさしい日本語」で



コミュニケーション

大分県教育委員会
大分県立図書館

【目次】

1 はじめに

- (1) 事業実施に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- (2) 大分県における在留外国人を取り巻く現状・・・・・・・・・・2
- (3) 地域における外国人を取り巻く現状・・・・・・・・・・・・・3
- (4) 「やさしい日本語」の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

2 事業の概要

- (1) 目的・趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- (2) 実施方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

3 事業のようす

- (1) 「やさしい日本語」の普及（「やさしい日本語」を「知る」）
 - ① 「やさしい日本語」講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - ② 「やさしい日本語」リーフレット・クリアファイルの作成・配布・活用・・・・・・・・・・7
 - ③ 「やさしい日本語」動画の作成・配信・活用・・・・・・・・・・・・・8
- (2) 「やさしい日本語」学習機会の提供（「やさしい日本語」を「学ぶ」）
 - i) 全県への学習機会の提供
 - ① 「やさしい日本語」学習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
 - ② 在留外国人との実践交流会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
 - ③ 行政職員対象研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
 - ④ 県立大分南高等学校福祉科との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
 - ⑤ 社会教育主事派遣による公民館講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
 - ii) モデル地域における「やさしい日本語」学習内容の深化及び指導者の育成
 - ① 地域拡大企画会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
 - ② コミュニケーションワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
 - ③ 『『ともに暮らす』まちづくり実践活動』企画会議・・・・・・・・・・16
 - ④ 『『やさしい日本語』サポーター』の育成及び派遣・・・・・・・・・・16
- (3) 「やさしい日本語」学習成果の活用と実践活動例の提示（「やさしい日本語」で「つながる」「行動する」）
 - ① 「ともに暮らす」まちづくり実践活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

4 成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

5 課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

6 おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

1 はじめに

(1) 事業実施に至る経緯

平成30年12月25日、「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」が閣議決定され、翌平成31年4月1日には、「出入国管理及び難民認定法」が改正・施行された。

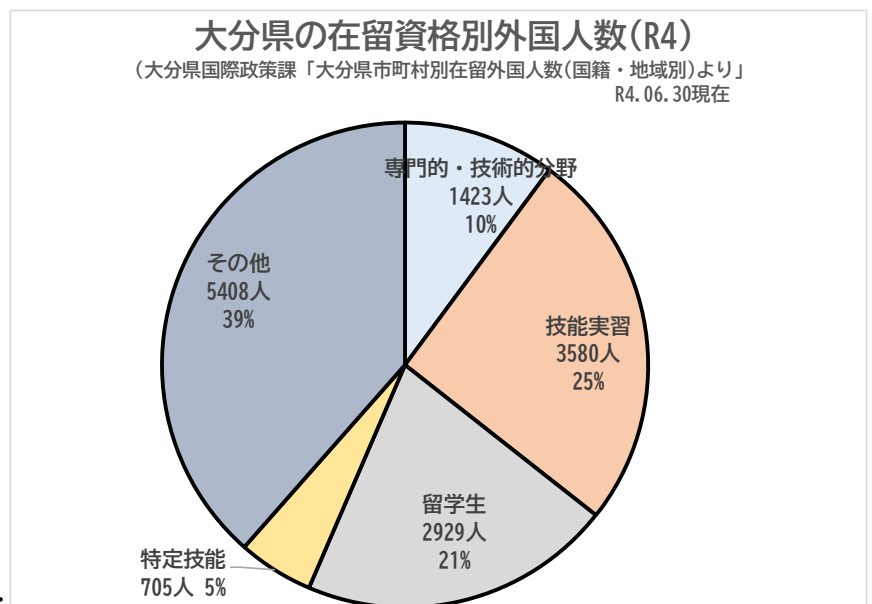
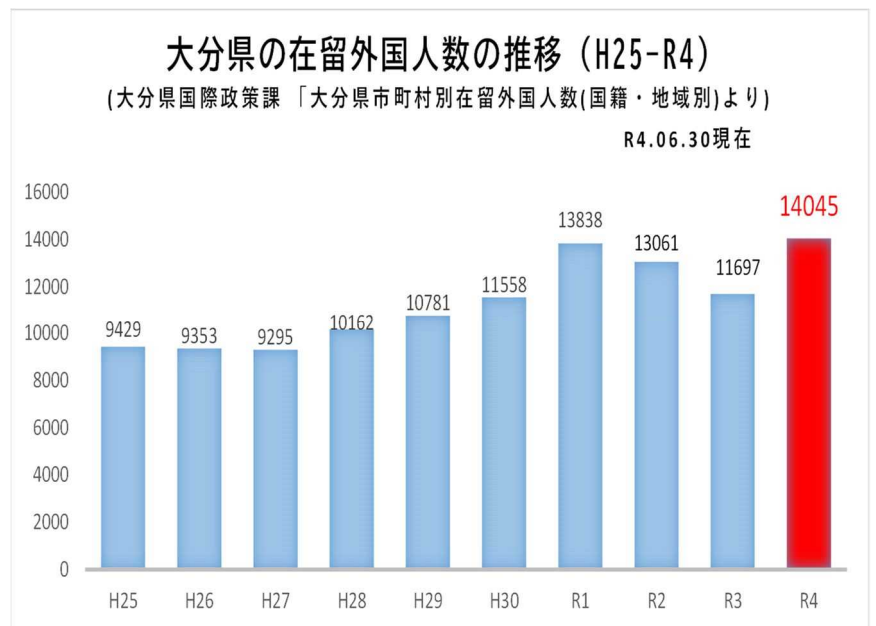
これらを受け、大分県でも県庁内関係各課で構成される「大分県外国人材の受入れ・共生のための対応策協議会」が設立され、外国人から選んでもらえる県となるために、県と市町村が足並みを揃えて、企業等が必要とする外国人材を適正に受け入れ、日本人と外国人が安心して安全に暮らせる地域社会を実現するための対応策が策定されている。そこには、「暮らしやすい地域社会づくり」「生活サービス環境の改善等」等が挙げられているが、併せて「円滑なコミュニケーションの実現」の必要性も謳われている。

(2) 大分県における在留外国人を取り巻く現状

大分県内の在留外国人数は、令和元年度は13,838人とそれまでの最多人数を記録したが、その後は新型コロナウイルスの拡大に伴い技能実習生や留学生在が入国できない状況が続き、令和3年度は11,697人まで減少した。しかし入国規制が緩和された令和4年6月には14,045人と過去最多を更新するまでに回復した。

コロナ禍前から、外国人に対して日本語指導や生活支援窓口の設置、県民との交流イベントなどによる国際交流や文化交流等の取組が行われてきた。今後は県内全域において外国人の更なる増加が見込まれる。それに伴い、外国人を地域社会の一員として迎え入れていくための日本人住民側の理解及び意識変容が必要であると考えられる。

また、県内在留外国人のうち、技能実習生が25%、留学生在が21%を占めている。比較的短期の在留となる例が多いが、少子高齢化と人口減少が進む中、外国人材が引き続き県内に居住・就労することで、地域経済・産業を支え、地域社会を支える構成員として貴重な人材となることが予想される。



(3) 地域における外国人を取り巻く現状

令和4年6月末現在の県内市町村別外国人数は、別府市が3,956人と最も多く、次いで大分市3,687人、中津市1,682人、宇佐市815人、豊後高田市710人の順となっている。

別府市は立命館アジア太平洋大学（APU）や別府大学等への留学生が2,418名で全体の61%を占めている。一方、中津市や宇佐市、豊後高田市の県北3市は、自動車関連工場を中心に働きながら技術を身につける技能実習生が4割から6割を占めている。また、コロナ禍の収束に伴い、佐伯市や日田市など、これまで外国人が多くなかった地域でも、工場や農場等での技能実習での在留が増加傾向にある。

いずれの市でも、在留外国人と日本人住民は、地域の祭りやイベント等で交流を行っている。しかし、多くの日本人住民にとっては、近くに住んでいるのは知っていても、日常生活の中での会話等「身近な交流」の機会はそれほど多くない。交流機会が少ないと、意思疎通ができないことや文化・習慣の違いから来る「困り」や「偏見」等が散見されるようになる。例えば、

- アパートで共同生活をしている外国人が、夜中にパーティーなどをして騒ぐ
- アパートの階段を大きな音を立てながら何度も上り下りする
- ゴミの分別ができていない
- 外国人が集団で行動していると「子どもが声を掛けられるのではないか」と思ってしまう
- 「△△国の人は**だ」

等、実際の生活で見られる行動に対する「困り」だけでなく（そもそもこれらも、必ずしも外国人に限ったことではない）、「言葉や文化の違う外国人」に対する偏見へとつながってしまう場合もある。何とか接触したい、交流したいと考えても、どうしても「言葉の壁」に阻まれてしまう。

一方、在留外国人の側も、慣れない異国での生活において当然のように悩みや困りを抱えて生活している。例を挙げると、

- 子どもが学校から持って帰るプリントの内容がわからない
- 子どもの宿題を見てやれない
- バスの乗り方や行き先がわからない
- 病院で症状を上手く伝えることができず、また、医者や看護師の言うことが難しい
- 出された料理の材料がわからない

等、宗教上あるいは生活習慣上のものもあるが、多くは言葉が通じないことによる悩みや困りである。それを共有できるのは、学校や職場以外では同じ国の仲間となることが多く、言葉が通じない地域住民との接触は行いにくいのである。

また、バスの行き先や避難場所等公共の場での表示では、英語や中国語、韓国語が併記されていることがあるが、在留外国人の大半を占める東南アジア出身者は、これらの言語がわからない人が多い。さまざまな国から日本を訪れている現状では、全ての人々に対応することは困難である。

日本人住民は「言葉が通じない」「英語なら話せるけど、英語が通じない」と思い、また在留外国人は「日本語は難しい」「外国人だからと言って英語がわかるとは限らない」と思う。両者の交流を妨げる「言葉の壁」は、やはり高いのである。

しかし一方では、「日本にいる外国人は、簡単な日本語なら理解することができる」という事実もある。少し古いデータだが、文化庁が平成13年に行った「日本語に対する在住外国人の意識に関する実態調査」では、「日本語の聞き取り」について、「よくわかる」「半分くらいわかる」を合わせ

て 56%、「少しわかる」まで加えると実に 95%の外国人が「日本語を聞き取ることができる」と回答している。別府市であれば在留外国人の多くは日本語を学ぶために来日した留学生であり、中津市であれば技能実習生の多くは市教育委員会社会教育課が公民館で行っている日本語教室に通い、日本語能力試験合格を目指し勉強している。滞在年数や学習年数によって違いはあるだろうが、簡単な日本語であれば理解できる外国人は多いのである。



中津市如水コミュニティセンターでの日本語教室の様子

日本人住民からみても、英語や中国語が話せる人は限られるし、多言語に対応できる人は尚の事少ない。しかし、日本語なら話すことができる。その日本語を使えば、地域に暮らす外国人とコミュニケーションを取ることができるかもしれないのである。

(4)「やさしい日本語」の活用

そこで注目されたのが「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションである。「やさしい日本語」は、阪神淡路大震災（1995・平成7年）発生後の混乱の中で、外国人に災害の情報を「早く」「正しく」「簡潔に」伝えるために考案されたものである。その後、災害情報だけでなく、日常生活の中でも必要な情報が伝わるよう、病院や行政窓口で使用されるようになった。現在では、地域に暮らす外国人との日常会話や、観光客などあまり日本語が得意でない場合など、さまざまな外国人とコミュニケーションをとる手段として広く知られるようになった。

大分県でも、令和2年に改訂された「大分県長期総合計画～安心・活力・発展プラン 2015（2020改訂版）」の中に、変化の激しい時代を生き抜く生涯を通じた学びの支援のために、「社会教育施設を活用した地域住民と外国人とのコミュニケーション促進のための『やさしい日本語』学習機会の提供」をすすめることが挙げられている。言葉や文化の違いを超え、外国人を地域社会の一員として積極的に受け入れていく「多文化共生社会」の実現に向け、地域住民と外国人の円滑なコミュニケーション機会の拡大が必要不可欠であるとされている。

そこで、大分県教育委員会（大分県立図書館）では、令和2年度から、社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の普及や学習機会の提供及び交流活動の取組による、地域在住日本人と在留外国人とのコミュニケーション拡大を目的に「外国人とのコミュニケーション拡大事業」を実施することとなった。本事業の実施により、公民館等の社会教育施設において、外国人と日本人との交流を支援することにより、日本人に対する多文化共生への意識醸成を図った。また、地域住民や行政職員に対し「やさしい日本語」の学習機会を提供することで、社会教育施設を活用した地域全体への「やさしい日本語」の普及や、日本人と外国人との交流機会の増加に向け、様々な取組を行ってきた。

2 事業の概要

(1) 目的・趣旨

「外国人とのコミュニケーション拡大事業」の事業目的は、以下のとおりである。

入管法改正による新たな外国人材受入れのための在留資格が創設される中、今後、大分県においても外国人住民の増加が見込まれる。言葉や文化の違いを超え、それら外国人を地域社会の一員として積極的に受け入れていくために、地域住民と外国人の円滑なコミュニケーション機会の拡大が必要である。

外国人が日本の地域社会に溶け込んでいくための大きな障壁の一つとして「日本語」の難しさがあるが、本事業において、地域住民や社会教育関係職員を対象とした「やさしい日本語」に関する学習会や外国人との交流活動などを実施し、積極的な交流意識及び相互理解意識を醸成することにより多文化共生社会の実現を目指す。

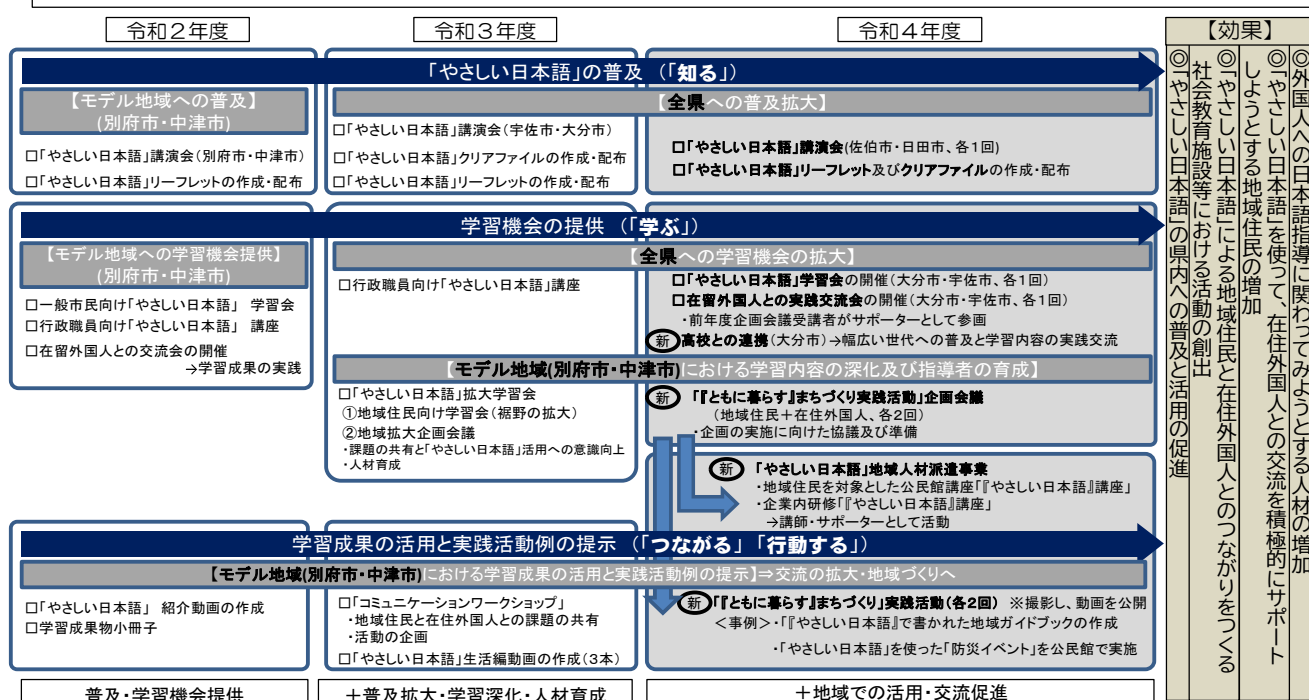
(2) 実施方法

事業を実施するにあたり、

- ①「やさしい日本語」の全県への普及拡大（「やさしい日本語」を知る）
 - ②「やさしい日本語」の全県への学習機会の拡大及び外国人の多い中津市・別府市をモデル地域とした、学習内容の深化と指導者の育成（「やさしい日本語」を学ぶ）
 - ③モデル地域での学習成果の活用と実践活動例の提示（「やさしい日本語」でつながり行動する）
- の3つを事業の柱として取り組むこととした。

外国人とのコミュニケーション拡大事業 概要図(R2-R4)

【目標】 社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の普及や交流活動の取組による、県内在住外国人と地域住民のコミュニケーションの拡大 【現状】 県内在住外国人13,061人(R2) 前年度比 △530人 内訳: 技能実習生3,903人 留学生2,763人 専門的・技術的分野1,195人 その他5,079人 国籍上位5位: ①ベトナム ②中国 ③韓国 ④フィリピン ⑤インドネシア 【課題】 地域住民と在留外国人とのコミュニケーション不足 ・互いの言語がわからない ・交流機会の少なさ ・多文化共生への意識の低さ	【根拠法令等】 ○「外国人の受入れ・共生のための教育推進検討チーム報告」(文科省) ・『やさしい日本語』など多文化共生や日本語教育に対する地域住民の理解を推進するための活動を促進することの重要性 ○「大分県長期計画 安心・活力・発展プラン2015(2020改訂版)」 「発展」(1)(7)変化の激しい時代を生き抜く生涯を通じた学びの支援 ・社会教育施設を活用した地域住民と外国人とのコミュニケーションの促進 (社会教育施設での「やさしい日本語」学習機会の提供)
【事業を実施する上で明らかにした課題】 ○「やさしい日本語」の県内全域の幅広い世代への普及拡大と学習機会の提供 ○モデル地域における、継続的な事業実施に対するサポート ○新型コロナウイルス感染拡大に伴う「新しい生活様式」に対応した事業の実施	○「やさしい日本語」学習者が、学習成果を発揮し、指導者として活動できるようなプログラムの構築 ○地域住民や在留外国人が、交流会等により多く参加するための事業内容及び広報の工夫



3 事業のようす

(1) 「やさしい日本語」の普及（「やさしい日本語」を「知る」）

① 「やさしい日本語」講演会

【目的】

- ・「やさしい日本語」の普及と啓発
- ・外国人を地域の一員として積極的に受け入れる意識の醸成

【日・会場】 令和2年9月12日(土) 別府ビーコンプラザ 国際会議室（別府市）
令和2年9月13日(日) 中津市教育福祉センター 多目的ホール（中津市）

【参加者】 日本語教室指導者、小学校日本語指導員、企業関係者、社会教育関係者、教職員 等
別府市：65名 中津市：31名

【講師】 本田 明子 氏（立命館アジア太平洋大学言語教育センター長／教授）

【演題】 「多文化社会を生きる－『やさしい日本語』というコミュニケーション」

- 【感想】 ◇「やさしい日本語は、相手を思いやり、わかりやすいように話すことが大切であり、「はさみ(はっきりと 最後まで 短く)」は、日本語を考える立場から、とても重要だと感じた。
◇「やさしい日本語」の考え方を広めること、実際にいろいろなところで使うことで、外国人とのコミュニケーションを深めて、外国人にとっても住みやすい社会にしていけることが大事だと思った。
◇外国人と対する時、やはり構えていたような気がし、反省した。「やさしい日本語」は、使うときの1つのバリエーションである。相手へのやさしい気持ちを忘れず、相手に伝わる言葉を磨き、使いたい。



令和2年度

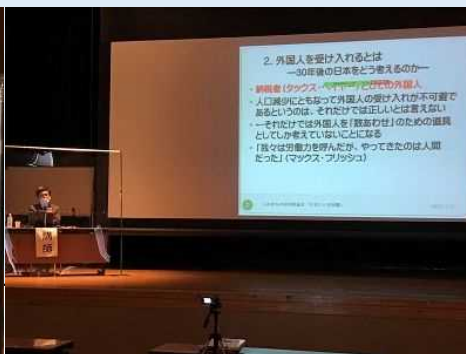
【日・会場】 令和3年7月3日(土) 院内文化交流ホール 大ホール（宇佐市）
令和3年7月4日(日) 大分県立図書館 視聴覚ホール（大分市）

【参加者】 日本語教室指導者、小学校日本語指導員、企業関係者、社会教育関係者、教職員 等
宇佐市：35名 大分市：61名

【講師】 庵 功雄 氏（一橋大学国際教育交流センター 教授）

【演題】 「これからの日本社会と『やさしい日本語』」

- 【感想】 ◇外国人や障がいのある方に使うものだ、という意識だったが、相手に伝えたい、わかりたいという気持ちが大切で、相手が誰であっても「やさしい日本語」は役立つものだとわかった。
◇外国人のためだけでなく、社会全体のために実践できることだと思った。「お互い様」を念頭に置いて、想像力を働かせて、社会のために動くことが大切だと感じた。
◇30年後の日本を見据えて、増えてくる外国人労働者や定住者に対し、わかりやすい「やさしい日本語」を心掛けたいと思う。



令和3年度

【日・会場】令和4年 6月11日(土) 日田市民文化会館パトリア日田 小ホール (日田市)
令和4年10月15日(土) 佐伯市弥生地区公民館 大ホール (佐伯市)

【参加者】日本語教室指導者、小学校日本語指導員、企業関係者、社会教育関係者、教職員 等
日田市：69名 佐伯市：81名

【講師】岩田 一成 氏 (聖心女子大学現代教養学部日本語日本文学科 教授)

【演題】「『やさしい日本語』を使いましょう」

【感想】◇たくさんの学びがあった。公務員故、ついつい難しい言葉多用してしまうので反省した。「技術論より態度」、まさにそうだと納得した。少しずつでも取り組んでいきたい。
◇「やさしい日本語」に正解はなくても、「わかりやすく」と「相手のことを思って」というのが大切だということ学んだ。日本語で話し掛けるのがよいということは目から鱗だった。
◇仕事上「やさしい日本語」を使うことが多いが、行政からの手紙やちょっとしたイベントのお知らせなどが難しいと感じる。日本人も外国人も大人も子どもも、みんながわかりやすい言葉でコミュニケーションをとることを心掛けたい。



②リーフレット・クリアファイルの作成・配布・活用

【目的】
・「やさしい日本語」の県民への普及
・学習資料としての活用

◎リーフレット

【印刷数】6,700部

【配布先】外国人材の受入れ・共生のための対応策協議会、日本語指導者研修
本事業講演会・学習会・イベント、県立図書館主催研修、社会教育主事派遣事業 等

◎クリアファイル

【印刷数】6,000部

【配布先】本事業講演会・学習会・イベント、県立図書館主催研修、社会教育主事派遣事業 等

③「やさしい日本語」動画の 作成・配信・活用

【目的】

- ・「やさしい日本語」の概要や活用例の動画を作成
- ・県生涯学習情報提供サイト「まなびの広場おおいた」にて公開

令和2年度公開

①「『やさしい日本語』は伝わる日本語」（紹介編）

【時 間】14分

【内 容】「やさしい日本語」の成り立ちや概要、必要性について

【公開日】令和3年2月

【再生数】7,197回（令和5年1月現在）



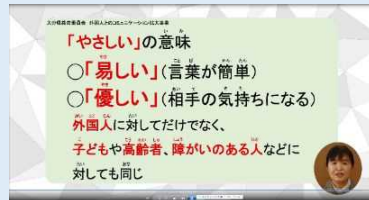
②「『やさしい日本語』は伝わる日本語」（活用編）

【時 間】13分

【内 容】「やさしい日本語」を書く時や話す時のルールやポイント

【公開日】令和3年2月

【再生数】1,494回（令和5年1月現在）



令和3年度公開

①「『やさしい日本語』でコミュニケーション！」（コミュニケーション編）

【時 間】9分（4分30秒の短編動画を2本）

【内 容】日本人と外国人とのコミュニケーションでの注意点について

【公開日】令和4年2月

【再生数】358回（令和5年1月現在）



②「『やさしい日本語』でコミュニケーション！」（生活編Ⅰ）

【時 間】6分（3分の短編動画を2本）

【内 容】外国人にとって難しい日本語表現と生活の中の「やさしい日本語」について

【公開日】令和4年2月

【再生数】626回（令和5年1月現在）



③「『やさしい日本語』でコミュニケーション！」（生活編Ⅱ）

【時 間】6分（3分の短編動画を2本）

【内 容】外国人にとって難しい日本語表現と生活の中の「やさしい日本語」について

【公開日】令和4年2月

【再生数】248回（令和5年1月現在）



令和4年度公開

◎中津市・別府市での交流イベントのようすを撮影し、公開 ※令和5年3月公開予定

①「メイプル耶馬サイクリング『やさしい日本語』交流イベント」（中津市）

【内 容】耶馬溪サイクリングや青の洞門観光での「やさしい日本語」を使った日本人と外国人との交流イベントのようす

【撮影日】令和4年11月26日



②「『やさしい日本語』の日(勝手に)制定記念！『やさしい日本語』“発見”交流会inべっぴ」（別府市）

【内 容】落語やクイズ、留学生の出身国紹介などとおした日本人と外国人との交流イベントのようす

【撮影日】令和4年11月27日



③「『やさしい日本語』イベントIN中津 日本の正月を楽しもう！カルタ大会」（中津市）

【内 容】カルタや獅子舞などの日本の正月体験やゲームや歌をとおした日本人と外国人との交流イベントのようす

【撮影日】令和5年1月15日



(2) 「やさしい日本語」学習機会の提供（「やさしい日本語」を「学ぶ」）

i) 全県への学習機会の提供

① 「やさしい日本語」学習会

【目的】

- ・「やさしい日本語」の基礎や書き方・話し方について学習
- ・相手に応じた言葉の選び方や伝え方を工夫できる人材の育成

【日・会場】 令和2年10月26日(月) 別府市中央公民館 講座室 (別府市)

令和2年11月 9日(月) 中津市今津コミュニティセンター 集会室 (中津市)

【参加者】 日本語教室指導者、小学校日本語指導員、企業関係者、日本語支援ボランティア 等
別府市：23名 中津市：21名

【講師】 本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)

【内容】 演習：「『やさしい日本語』への書き換え」「『やさしい日本語』で話してみよう」

【感想】 ◇自分が使っている日本語を見つめ直すよい機会になった。「やさしい日本語」を使うことは思ったよりも難しかった。これからわかりやすい日本語を使いたい。
◇相手の立場に立って日本語を書いたり話したりすることを実際にやってみてよかった。外国人と話をするときはドキドキするが、機会があればすすんで「やさしい日本語」でお話したい。
◇外国人に理解してもらうための工夫、日頃からのコミュニケーション、親切や思いやりのある付き合い方等も大事だとわかった。「やさしい日本人」であることが大事だと思った。



令和2年度

【日・会場】 令和3年7月31日(土) 別府市北部地区公民館 会議室 (別府市)

令和3年8月 1日(日) 中津市和田コミュニティセンター 集会室 (中津市)

【参加者】 自治会関係者、防災士、企業関係者、学校関係者、日本語指導員 等
別府市：21名 中津市：28名

【講師】 本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)

【内容】 演習：「『やさしい日本語』への書き換え」「『やさしい日本語』で話してみよう」

【感想】 ◇「察してください文化」の中に生きて66年、「目から鱗」の内容だった。
◇「大事な言葉を残すこと」「原文にないが大切なことは付け加えること」は新たな発見だった。
◇普段意識せずに使っている日本語が、外国の方にとってどれだけわかりにくいのか、ということを知った。「やさしい日本語」を身につけ、外国人とコミュニケーションをとっていきたい。
◇「やさしい日本語」に書き換える練習がとても有効だった。受け身ではなく、自分で考える機会をもつことができた。



令和3年度

【日・会場】 令和4年8月21日(日) 大分県立図書館 第2・3研修室 (大分市)
令和4年9月 4日(日) 宇佐市駅川公民館 集会室 (宇佐市)

【参加者】 日本語教室指導者、企業関係者、公民館職員、行政職員、大学生 等
大分市：日本人13名 外国人2名、「やさしい日本語」サポーター3名
宇佐市：日本人7名、外国人3名、「やさしい日本語」サポーター3名

【講師】 本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)

【内容】 演習：「『やさしい日本語』への書き換え」「『やさしい日本語』で話してみよう」

【感想】 ◇「空気を読むのではなくて」のくだり、“おもてなし”“察する”が嫌な思いをすることにもなることなど、勉強になった。
◇「やさしい日本語」、今後ますます広がっていくと思うし、広げていきたい。国際学生さんの話も聞くことができてよかった。
◇外国人との交流をとおして、より実践的な学習ができた。思った以上に難しかった。あえて「やさしい日本語」にしない日本語もあることを知った。



「やさしい日本語」 活用のポイント ①

◎まずは『「はさみ」の法則』を 意識しましょう。

- 「は」・・・「はっきり」と 言います。
- 「さ」・・・「最後まで」言います。
- 「み」・・・「短く」言います。

・あいまいな 表現は 避けます。

(「この辺」「たぶん」「・・・と思う」 など)

・接続詞を 使った 長い 文は わかりにくいです。

短い 文に 区切って 伝えます。

②在留外国人との実践交流会

【目的】

- ・外国人との交流をととした、これまでの学習成果の実践
- ・今後の「やさしい日本語」を活用した地域づくり活動への始点

【日・会場】 令和3年1月16日(土) 別府市中央公民館 講座室 (別府市)

令和3年3月 7日(日) 中津市如水コミュニティセンター 集会室 (中津市)

【参加者】 留学生支援ボランティア、公民館職員、「協育」コーディネーター、企業関係者 等(日本人)
留学生、技能実習生(外国人)

別府市：日本人10名、外国人 5名

中津市：日本人 8名、外国人12名

【進 行】 黒木 哲也 (大分県立図書館学校・地域支援課 主任社会教育主事)

【助言者】 本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)

【内 容】 「やさしい日本語」を使った、外国人との交流活動

・「インタビューゲーム」「ペア作りゲーム」「ビンゴゲーム」

【感 想】 ◇留学生と触れ合うことができ、とてもうれしかった。今後の活動により一段と積極的に参加したい。

◇ゲームをととして日本語が鍛えられると感じた。どの動詞を使うのか考えるのがおもしろかった。

◇ゲーム中の会話も楽しかったが、休憩時間もたくさん話ができてよかった。よい時間だった。この出会いを大切にしたい。

◇本日の交流会について、私にとって、非常に楽しくて、色々なことも話せる。このような機会はこのコロナの時代にあまりなかったので、心の中から感謝します。(外国人)



【日・会場】 令和4年 9月25日(日) 大分県立図書館 第2・3研修室 (大分市)

令和4年11月13日(日) 宇佐市駅川公民館 集会室 (宇佐市)

【参加者】 図書館職員、公民館職員、社会教育関係者、地域住民 等(日本人)

留学生、技能実習生(外国人)

大分市：日本人7名、外国人8名、「やさしい日本語」サポーター3名

宇佐市：日本人7名、外国人5名、「やさしい日本語」サポーター3名

【進 行】 森川 寿子 氏 (多文化共生マネージャー)

【助言者】 本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)

【内 容】 交流ゲーム (アイスブレイク、「ヒューマンビンゴ」「共通点探し」「クイズ」)

【感 想】 ◇外国人と直接話ができてよかった。外国人に日本語を伝えることは難しいと改めて思った。「やさしい日本語」について、わかりやすく伝えられるよう勉強しないといけないと感じた。

◇今まで日本語がある程度わかる参加者が多かったが、今日は必ずしもそうでない参加者もあり、「やさしい日本語」を使うのが難しかったが、有効性も強く感じた。

◇交流ができて、実際に使うことができてよかった。伝わる「やさしい日本語」を意識していきたい

◇やさしく日本語を説明してくれてたすかります！(外国人)



③行政職員対象研修会

【目的】

・外国人に対応する機会の多い行政職員を対象とした、相手に応じた言葉の選び方や伝え方についての講義による業務支援

【日・会場】 令和2年11月6日(金) 別府市中央公民館 講座室 (別府市)

令和2年11月20日(金) 中津文化会館 小ホール (中津市)

【参加者】 首長部局職員、教育委員会職員、消防本部職員、公民館職員等
別府市9名、中津市25人

【講師】 本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)

【内容】 講義: 「多文化社会を生きるー『やさしい日本語』というコミュニケーション」

演習: 「『やさしい日本語』の使い手になるために」

【感想】 ◇窓口に来る留学生が、不快な気持ちをせずに安心して手続きできるチカラになる講座だった。
◇みんなが住みやすい街になるよう、相手の立場を想像した声掛け・行動を心掛けたいと思った。相手への変化を求める、という視点から、自分でできることをやってみる、という視点も大切にしたい。
◇外国人に分かりやすい文章を作成するのがこんなにも難しいのかと実感した。
◇英語ではなく、日本語も有効であることは知らなかった。



【日・会場】 ① 令和3年9月7日(火) 大分県立図書館 第2・3研修室 (大分市)

② 令和3年12月6日(月) 大分県立図書館 第2・3研修室 (大分市)

【参加者】 ① 県及び市町村の社会教育主事、社会教育行政職員、公民館職員 21名

② 県内公立図書館及び学校図書室の司書・職員 50名

【講師】 ① 布尾 勝一郎 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター 准教授)

② 本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)

【内容】 講義 (「やさしい日本語」の概要と有効性、活用について)

【感想】 ◇行政文書に慣れすぎて、「わかりやすくする」という視点を忘れていた。相手の立場に立って伝わるよう、実例や身振り手振り、実物なども使っていたい。

◇「やさしい日本語」は防災や医療など命や生活に関わる場面で必要というイメージだったが、観光やまちづくりでも活かせるものだとなった。「外国人は地域の資源」という言葉が印象に残った。

◇今まで知らなかったの、これから学んでいきたい。図書館の案内表示や館内放送でも使っていきたい。

◇「目からうろこ」の話がたくさんあった。外国人だけでなく、高齢者や子ども、障がいのある方々にも有効だと感じた。



令和2年度

令和3年度

④県立大分南高等学校福祉科との連携

【目的】

- ・幅広い世代への普及
- ・福祉系のキャリア教育への活用

【日・会場】① 令和4年7月13日(水) 大分県立大分南高等学校 多目的教室 (大分市)
② 令和4年9月 8日(木) 大分県立大分南高等学校 多目的教室 (大分市)

【参加者】① 大分南高等学校福祉科2年生75名
② 大分南高等学校福祉科3年生69名、立命館アジア太平洋大学国際学生10名
「やさしい日本語」サポーター2名

【講師】① 本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)
② 森川 寿子 氏 (多文化共生マネージャー)
本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)

【内容】① 講義:「『やさしい日本語』というコミュニケーション~多文化共生時代の日本を考える」
② 演習:「『やさしい日本語』を使った、外国人との交流」

【感想】◇これから外国人と話すことが多くなり、「やさしい日本語」を使うことも増えると思うので、学習したことをしっかり活用し、「はさみの法則」を守っていきたい。
◇緊急時、外国人が私たちが普段話している言葉では伝わらないことを初めて知った。一番伝えたいことは何かを考え、自分で工夫して話したい。
◇外国人がどんな言葉がわからないのか、がわかってよかった。書いてあること・言いたいことの先を伝えることが大事だとわかった。

令和4年度



⑤社会教育主事派遣による公民館講座

【目的】

- ・県立図書館社会教育主事が市町村の依頼に応じて公民館講座等で「やさしい日本語」講座を実施

令和3年度

- ① 大分県建設業協会宇佐支部での研修会における「やさしい日本語」についての講義
【日・場所・参加者】令和3年6月17日(木) 大分県建設業協会宇佐支部 14名
【対応者】大分県立図書館学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也
- ② 別府市中央公民館「湯のまち学びのカレッジ中央キャンパス」12月講座「やさしい日本語」講座
【日・場所・参加者】令和3年12月9日(木) 別府市社会福祉会館 26名
【対応者】大分県立図書館学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也

令和4年度

- ① 玖珠町中央公民館「生きがい教室」「やさしい日本語」講座
【日・場所・参加者】令和4年7月20日(金) 玖珠自治会館 22名
令和4年8月 4日(木) 北山田自治会館 11名
令和4年8月17日(水) 森自治会館 16名
令和4年8月25日(木) 八幡自治会館 6名
【対応者】大分県立図書館学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也
- ② 佐伯市文化芸術交流課主催「さいきワールドフェスタ」での「やさしい日本語」普及・啓発
【日・場所】令和4年10月29日(土)・30日(日) さいき城山桜ホール
【対応者】大分県立図書館学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也
「やさしい日本語」サポーター4名
- ③ 別府市中部地区公民館「湯のまち学びのカレッジ中部キャンパス」11月講座「やさしい日本語」講座
【日・場所・参加者】令和4年11月21日(月) 別府市中部地区公民館 8名
【対応者】大分県立図書館副館長兼学校・地域支援課長 矢野 修
- ④ 別府市中央公民館「湯のまち学びのカレッジ中央キャンパス」1月講座「やさしい日本語」講座
【日・場所・参加者】令和5年1月12日(木) 別府市中央公民館 28名
【対応者】大分県立図書館学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也

ii) モデル地域における「やさしい日本語」学習内容の深化及び指導者の育成

①地域拡大企画会議

【目的】

- ・「やさしい日本語」の地域への普及に向けた企画について協議
- ・「やさしい日本語」の指導や普及ができる人材の育成

- 【日・会場】<別府市>第1回：令和3年 9月18日(土) 別府市中央公民館 講座室
第2回：令和3年10月16日(土) 別府市野口ふれあい交流センター 研修室
<中津市>第1回：令和3年 9月19日(日) 中津市和田コミュニティセンター 集会室
第2回：令和3年10月23日(土) 中津市如水コミュニティセンター 集会室
- 【参加者】令和2年度・令和3年度の学習会等に参加した日本人住民
(防災士会、企業関係者、学校関係者、日本語指導員、留学生ボランティア 等)
別府市：第1回16名、第2回14名 中津市：第1回31名、第2回26名
- 【講師】本田 明子 氏 (立命館アジア太平洋大学言語教育センター長/教授)
森川 寿子 氏 (多文化共生マネージャー)
- 【内容】ワークショップ
第1回：「外国人に気持ちよく暮らしてもらうために」「外国人との共生、課題は何？」
(外国人と接する際の困りや悩みの共有とその解決に対する「やさしい日本語」の有効性)
第2回：「6W2Hフレームワーク」「企画紹介ポスター作成」
(困りや悩みの解決に向けた企画の立案と「やさしい日本語」の活用や住民への普及促進)
- 【感想】◇実際に外国人と関わっている方の生の声や悩みが聞けて大変勉強になった。
◇このような会が企画され、実現されていることに希望を感じる。大分県が誰にとっても住みよい場所となることを願う。
◇「やさしい日本語」に興味がある人がたくさんいることがわかり、うれしかった。
◇当事者(外国人)をホスト側に入れる、という発想をもたないといけないと思った。

令和3年度



「やさしい日本語」 活用のポイント ②

◎使う 言葉の 数を 少なく します。

- ・簡単な 単語を 組み合わせて 使うと わかりやすい です。

(「今朝」→「今日の朝」、「土足禁止」→「くつをぬぐ」)

◎外来語や 擬態語は 避けます。

- ・外来語は 元の 外国語とは 発音や 意味が 違うことが あります。

②コミュニケーションワークショップ

【目的】

- ・「やさしい日本語」を活用した外国人との交流
- ・地域拡大企画会議の具現化に向けた協議

- 【日・会場】＜別府市＞第1回：令和3年11月13日(土) 別府市西部地区公民館 講座室
第2回：令和3年12月11日(土) 別府市西部地区公民館 講座室
＜中津市＞第1回：令和3年11月6日(土) 中津市和田コミュニティセンター 集会室
第2回：令和3年12月19日(日) 中津市如水コミュニティセンター 集会室
- 【参加者】地域拡大企画会議に参加した日本人住民、在留外国人（留学生、技能実習生 等）
（防災士会、企業関係者、学校関係者、日本語指導員、留学生ボランティア 等）
別府市：第1回 日本人11名、外国人5名 第2回 日本人12名、外国人4名
中津市：第1回 日本人29名、外国人8名 第2回 日本人27名、外国人8名
- 【講師】本田 明子 氏（立命館アジア太平洋大学言語教育センター長／教授）
森川 寿子 氏（多文化共生マネージャー）
- 【内容】ワークショップ
第1回：アイスブレイク（交流ゲーム）
ディスカッション「困りや悩みの共有」「一緒に取り組みたい企画の説明」
第2回：アイスブレイク（交流ゲーム）
ディスカッション「企画の完成に向けて」「広報・告知について」
- 【感想】◇前回(地域拡大企画会議)で考えた企画のポスターについて、外国人からコメントやアドバイスをもらい、どうすれば伝わるかがわかった。
◇『やさしい日本語』は、ツールとしての需要は低い。相互に思いやる心を鍛えるためのツールである」という言葉に目から鱗だった。
◇とてもよい企画。外国人のためにいろいろと考えてくれる日本人が集まっているのでうれしい！一つでも実現してほしい。(外国人)

令和3年度



「やさしい日本語」 活用のポイント ③

◎敬語は 使いません。

- ・外国人に とって（日本人も？）敬語は 難しいです
（「いらっしゃる」→「来る」、「いただく」→「食べる」）

◎文末は「です」「ます」に します。

- ・外国人が いちばん 最初に 学ぶのが「です」「ます」です。
- ・子どもに 話すような 言い方は 逆に わかりにくいです。

③「『ともに暮らす』まちづくり実践活動」 企画会議

【目的】

- ・前年度企画の実施に向けた協議
- ・サポーターのスキル向上とマインド醸成

【日・会場】＜別府市＞第1回：令和4年 6月25日(土) 別府市中央公民館 講座室
 第2回：令和4年 7月 9日(土) 別府市中央公民館 講座室
 第3回：令和4年 7月23日(土) 別府市中央公民館 第2会議室
 ＜中津市＞第1回：令和4年 6月12日(日) 中津市今津コミュニティセンター 集会室
 第2回：令和4年 9月24日(土) 中津市和田コミュニティセンター 集会室
 第3回：令和4年10月16日(日) 中津市今津コミュニティセンター 集会室

【参加者】前年度の企画会議に参加した日本人住民、在留外国人（留学生、技能実習生 等）
 （防災士会、企業関係者、学校関係者、日本語指導員、留学生ボランティア 等）

別府市：第1回 日本人11名、外国人6名 第2回 日本人9名、外国人5名

第3回 日本人10名、外国人2名

中津市：第1回 日本人21名、外国人8名 第2回 日本人10名、外国人2名

第3回 日本人13名、外国人3名

※イベント実施に向けて、両市とも自主的に「実行委員会」を開催

別府市：計5回 日本人のべ48名、外国人のべ31名参加

中津市：計7回 日本人のべ35名、外国人のべ6名参加

【指 導】本田 明子 氏（立命館アジア太平洋大学言語教育センター長／教授）

森川 寿子 氏（多文化共生マネージャー）

【内 容】協議「イベントの実施に向けて」

① 前年度企画の見直し ② 予算・準備物についての検討 ③ 関係機関との交渉

④ 役割分担 ⑤ 広報について

⑥ 講義「『やさしい日本語』サポーターとしてのスキルとマインド」

【感 想】◇「学び」の場から「会議」の場へと変わるとも珍しい教室だった。しかし、おかげで他の講座より広く深く自発的に考え、参加することができた。

◇長い時間をかけて、やっと一つのイベントが企画できてうれしかった。イベントの実施に向けて最後までがんばりたい。

◇日本人と外国人の角度からいろいろな話をして意見を出し合うのが楽しかった。イベントをするのが楽しみ(外国人)

令和4年度



④「『やさしい日本語』サポーター」 の育成及び派遣

【目的】

- ・「やさしい日本語」を有効に活用し、その指導や普及のサポートができる人材の育成

【対 象】令和3年度及び令和4年度の本事業に継続して参加し、「やさしい日本語」普及・交流イベントの企画から運営まで携わった地域住民（「『やさしい日本語』サポーター証」を授与）

【認定数】中津市参加者：18名 別府市参加者：16名 計34名

【活 動】・「『やさしい日本語』学習会」「『やさしい日本語』交流会」「高校生と留学生の交流」等の事業における、講師の補助と参加者の交流へのサポート

・「さいきワールドフェスタ」での、来場者への「やさしい日本語」普及活動

・中津市、別府市での「やさしい日本語」普及イベントの企画、準備、運営



(3)「やさしい日本語」学習成果の活用と実践活動例の提示

(「やさしい日本語」で「つながる」「行動する」)

①「ともに暮らす」まちづくり 実践活動

【目的】

- ・「やさしい日本語」の普及と交流のイベント実施
- ・多文化共生社会に向けた意識の醸成
- ・公民館における「やさしい日本語」モデル事業の提示

メイプル耶馬サイクリング 「やさしい日本語」交流イベント

- 【日時】 令和4年11月26日(土) 9:00～15:00
 【場所】 メイプル耶馬サイクリングロード～耶馬トピア～青の洞門(中津市)
 【参加者】 日本人7名(企業関係者、日本語指導員、地域住民) 外国人10名(技能実習生)
 【スタッフ】 「やさしい日本語」サポーター4名
 【内容】 「耶馬溪」から「青の洞門」にかけてのサイクリングをととした、「やさしい日本語」による日本人と外国人との交流
 【準備】 ・「『ともに暮らす』まちづくり実践活動」企画会議 3回(6/12, 9/24, 10/16)
 ・実行委員会(自主開催) 3回(10/8, 11/5, 11/12)
 【感想】 ◇「易しく」「優しく」日本語を使う意識ができた。
 ◇このような機会がなかったら、なかなか外国人との交流ができなかったと思うので、ぜひまた参加したい。
 ◇インドネシアのみなさんの日本語が素晴らしかった。私たち日本人の方が心和まされた。
 ◇「やさしい日本語」でいろいろ教えてもらえて楽しかった。景色や紅葉がきれいだった。(外国人)



「やさしい日本語」イベントIN中津 日本の正月を楽しもう！カルタ大会

- 【日時】 令和5年1月15日(日) 10:00～13:00
 【場所】 中津市生涯学習センター まなびん館(中津市)
 【参加者】 日本人6名(高校生、防災士、市議会議員) 外国人12名(地元企業へのインターン生)
 【スタッフ】 「やさしい日本語」サポーター5名、協力者(ゲーム進行、パン作り)8名
 【内容】 カルタやゲーム、歌による日本人と外国人との交流、災害時の行動についての説明
 【準備】 ・「『ともに暮らす』まちづくり実践活動」企画会議 3回(6/12, 9/24, 10/16)
 ・実行委員会(自主開催) 2回(12/2, 1/7)
 【感想】 ◇「はさみ」の「み」を特に意識して進行した。「やさしい日本語」を使っの説明は難しかった。
 ◇外国人と交流する機会はめったにないのでとても楽しかった。
 ◇笑顔を共有することの大切さを改めて感じた。
 ◇楽しかった。また次のイベントに参加したい。日本人は優しい。(外国人)



「やさしい日本語」バドミントン交流イベント

- 【日時】令和5年3月11日(土) 12:00～14:00
 ※当初は12月に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大と大雪のため延期して実施。
- 【場所】中津体育センター(中津市)
- 【参加者】日本人15名(高校生、防災士、地域住民) 外国人12名(技能実習生)
- 【スタッフ】「やさしい日本語」サポーター2名、協力者(運営、VR体験指導)5名
- 【内容】バドミントンや防災VR体験をとおした「やさしい日本語」による日本人と外国人との交流
- 【準備】・「『ともに暮らす』まちづくり実践活動」企画会議 3回(6/12, 9/24, 10/16)
 ・実行委員会(自主開催) 3回(10/5, 10/25, 3/2)
- 【感想】◇うまくいった時や終わった後に「やさしい日本語」で声掛けをして、外国人とコミュニケーションがとれてとても楽しかった。
 ◇外国人とたくさん交流できた。みなさんと仲良くなれた。また参加したい。
 ◇日本人といっぱい話しました。みなさんととてもやさしいです。(外国人)



「やさしい日本語」の日(勝手に)制定記念 「やさしい日本語」 ”発見” 交流会inべっぴ

- 【日時】令和4年11月27日(日) 13:30～16:00
- 【場所】別府市野口ふれあい交流センター(別府市)
- 【参加者】日本人54名(一般市民) 外国人9名(留学生、一般市民)
- 【スタッフ】「やさしい日本語」サポーター17名、協力者(留学生、技能実習生)13名
- 【内容】歌や落語による「やさしい日本語」の普及、クイズや国紹介による日本人と外国人との交流
- 【準備】・「『ともに暮らす』まちづくり実践活動」企画会議 3回(6/25, 7/9, 7/23)
 ・実行委員会(自主開催) 5回(8/20, 9/10, 10/22, 11/19, 11/26)
- 【感想】◇「やさしい日本語」は、外国人だけでなく、日本人にとってもやさしいと感じた。
 ◇街の中、生活の中にある「やさしくない日本語」を見つけ、どう変えたら「やさしい日本語」になるか考えたい。
 ◇対面で交流できたことは大きいと感じた。コロナ禍に負けず、もっと交流ができるようになるといい。
 ◇「世界旅行(国紹介)」で、いろいろな国の友だちを作って、たくさん日本語で話した。とても楽しかった。別府の人はやさしい。(外国人)



「やさしい日本語」 活用のポイント ④

◎漢字や カタカナに ふりがなを ふります。

◎「、」や「。」を使います。「分かち書き」で書きます。

◎図や 写真、イラストなど、使えるものは何でも使います。

「やさしい日本語」に正解はありません。大切なのは、わかりやすく簡単にして(「易しく」)、相手のことを思って(「優しく」)伝えることです。

4 成果

(1) 「やさしい日本語」の県内への普及と活用の促進

本事業は、令和2年度から（一財）自治体国際化協会(CLAIR)の助成を受け3年にわたり実施した。7市町（中津市、宇佐市、別府市、大分市、佐伯市、日田市、玖珠町）で事業を実施し、のべ1,549名の県民が参加した。アンケート結果から、講演会や学習会、外国人との交流イベントに参加した県民のほとんどは、日本人と外国人のコミュニケーションにおける「やさしい日本語」の有効性を体感し、今後の普及・活用の必要性を強く実感したことがわかった。

(2) 地域に暮らす日本人と外国人の交流モデルの提示

中津市・別府市については、モデル地域として3年間協同で事業を企画・実施した。学習会や交流会に参加した市民が、「やさしい日本語」の普及と外国人との交流のためのイベントを企画し開催するまで、継続的に事業を実施し、最終的に素晴らしいイベントを両市で開催することができた。

今後は、それぞれの市独自に多文化共生に向けた継続的な事業実施を期待する。そのための支援を継続して行いたい。

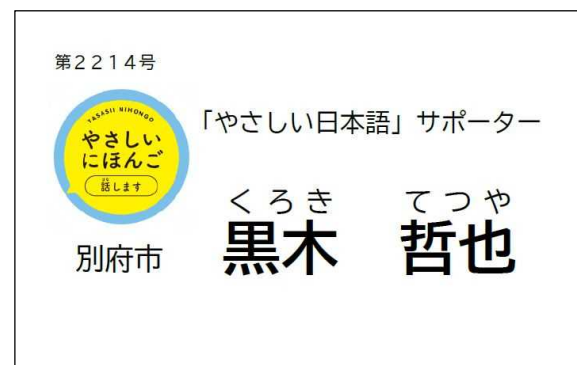
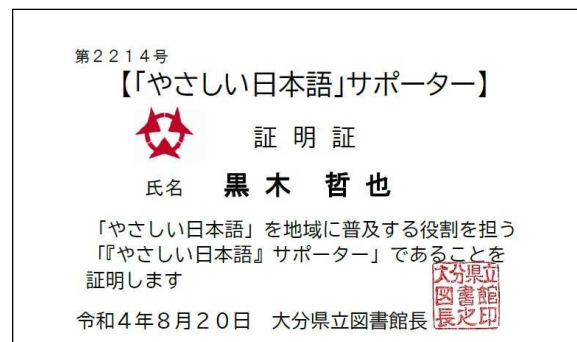
(3) 公民館の新たな活動としての「やさしい日本語」講座の実施

「多文化共生社会の実現」という新たな地域課題解決に向けた公民館講座のモデルとして、中津市・別府市でのモデル事業や、県立図書館「社会教育主事派遣事業」での講座等、公民館を活用した学習機会や交流機会の提供事例を提示することができた。公民館が、日本人・外国人双方にとっての地域活動・交流活動の拠点となるよう、県内各地に事例を紹介していきたい。

(4) 「やさしい日本語」サポーターの育成と活用

モデル地域において、学習会等への参加者が、イベントの「実行者」として企画の立案・準備・運営に携わり、その過程において「やさしい日本語」普及のためのスキルとマインドの向上に努めた。結果、中津市18名・別府市16名を「『やさしい日本語』サポーター」として任命した。

右のような「サポーター証」を授与し、それぞれの市でのイベントの運営はもちろん、他市での活動にも参加し、普及・交流活動に積極的に取り組んだ。



5 課題

(1) 在留外国人及び観光客の増加に伴うニーズの高まり

実施時期がコロナ禍と重なってしまい、地域の中での外国人との交流が限られたり、観光業・宿泊業など「やさしい日本語」を必要とする業種への参加依頼をためらったりした。

前述のとおり、県内の在留外語人数は令和4年度には過去最多となった。また、大分県を訪れる外国人観光客数も、コロナ禍以前の水準に戻り、以前のような賑わいが戻ってくることが予想される。今後「やさしい日本語」のニーズはさらに高まることが予想される。観光・宿泊関係者や医療・福祉関係者などとの協働による活用の拡がりを図りたい。

(2) 県内各地へのさらなる普及促進と学習機会提供（公民館を活用したモデル事業の県内での実施）

中津市・別府市で協同開発したモデル事業を、県内他市町村での実施につなげる取組が必要である。公民館等社会教育施設を地域拠点として有効活用し、多文化・多世代交流による持続可能な地域コミュニティの形成に向け、ICT等も有効に活用しながら、「やさしい日本語」を活用して地域の新たな「つながり」を創出していきたい。

(3) 「やさしい日本語」サポーターの活用と新たな人材の育成

モデル地域でも継続的な事業実施や、県内全域への更なる普及拡大に際し、育成した『やさしい日本語』サポーター」を有効活用し、スキル・マインドについてのフォローアップを継続して行う必要がある。また、県内への普及に伴い、各市町村でもサポーターの育成に努め、地域での多文化共生に資する人材としての活躍を促進したい。

6 おわりに

日本人が外国人とコミュニケーションをとる手段として、「やさしい日本語」を学び、活用することの有効性は、この3年間の取組の中で証明することができたと考える。また、モデル地域での交流イベントをとおして、多文化共生の推進だけでなく、多世代交流をとおした地域活性化のツールとしても、「やさしい日本語」を活用した取組は効果が期待できると感じた。

持続可能な地域づくりのためにも、地域活性化の観点からも、外国人を貴重な地域人材として地域社会に受け入れることは必要不可欠である。そのためにも、日本人住民に対する多文化共生へ向けた意識の醸成は非常に重要である。

「深いコミュニケーションは難しいかもしれないが、いろいろな人と気軽に話すことができ、相手のことをもっと知りたいという気持ちが生まれる。つながることができれば、お互い他人ではなくなる」。これは、昨年度から本事業に参加し、『やさしい日本語』サポーター」として活動している方の言葉である。人と人、文化と文化をつなぎ、誰もが暮らしやすい「やさしい」大分県となるよう、今後も引き続き取り組んでいきたい。



「外国人とのコミュニケーション拡大事業」は、
一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)の助成を受けて実施しました。